

校長 宮崎 克美

記述者 教頭 石川 和樹

学校教育目標 「よく学び 心豊かで たくましい児童の育成」

◇本年度の取組重点

- ①基礎基本の習得と面白く分かりやすい授業の創造 それらを基として「思考力・判断力・表現力」の育成を図る（特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力の確実な定着を図る）。
- ②いじめ・不登校のない学級・学校づくり。思いやりのある学級づくりや学校生活全般（特に授業）にも生徒指導を取り入れた取り組みを目指す。
- ③インクルーシブ教育と特別支援教育の推進 それぞれの子どもに即した指導と、職員の校内支援体制の一層の工夫・充実を図る。また、ノーマライゼーションの考えを育むよう努める。
- ④学校生活の規律確立。「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基に据える。また、児童会が作った「落合小こびつとルール」に全員で積極的に取り組む。
- ⑤学習習慣の育成。家庭学習を包括した学習指導。特に、明かな「学習の仕方」を身につけさせ、学習に主体的に取り組む力を高める。・読書・辞書利用
- ⑥体育・食育の重視。生涯を通じて健康な生活を送るために必要な運動習慣、食習慣、衛生習慣を育成する。
- ⑦児童会活動の重視。より良い学校生活づくりのために考え・協力して諸問題を解決していく力を育成する。
- ⑧指定研究の推進。「学びの質を高める授業づくり推進事業」「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」「いじめ・不登校未然防止推進事業」に積極的に取り組み、ICTの効果的な活用、場こふさわしい行動・あいさつ等ができるようにする。
- ⑨安全教育・安全管理の徹底。避難訓練などを通して、「自分の身は自分で守る」知恵と力を育てる。
- ⑩「開かれた学校づくり」の推進。情報を積極的に発信・受信し、家庭・地域・関係機関との連携を深める。

\*落合小学校教職員による自己評価、児童と保護者によるアンケートを【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。その回答を「AとBの合計：肯定的評価」、「CとDの合計：否定的評価」として割合で示し、【A：4点、B：3点、C：2点、D：1点】としてその平均点をポイントとして算出し、昨年度の結果と比較した。

\*アンケートについては、教職員・児童・保護者についてもすべてウェブ上（グーグルフォーム）でアンケートを実施した。

I 全体評価

「 肯定的な回答が大勢を占め、総じて評価は高い。（昨年度と同等） 」

\*本年度から甲西地区小中学校（4校）で「小中一貫教育」についての評価項目を設けている。

《評価内容と肯定的な評価割合とポイント 前年度》

1 「学校教育目標」	①～④ (100%)	3.8 ポイント	(R4 年度 3.7 ポイント)
2 「学校経営・組織」	⑤～⑩ (100%)	3.8 ポイント	(R4 年度 3.7 ポイント)
3 「学習指導・生徒指導」	⑪～⑯ (98.6%)	3.6 ポイント	(R4 年度 3.5 ポイント)
4 「地域との連携」	⑰～⑳ (100%)	3.7 ポイント	(R4 年度 3.6 ポイント)
5 「学校の特色」	㉑～㉔ (100%)	3.7 ポイント	(R4 年度 3.6 ポイント)
* 6 「小中一貫教育」	㉕～㉗ (98.6%)	3.3 ポイント	となっている。

## II 各項目の評価結果（達成状況・改善策）

### 1 「学校教育目標について」

#### 達成状況

- ・全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントはすべて3.7を上回り、全ての項目で昨年度よりポイントが向上している。
- ・「教職間の連携や協力が成されている。」「教職員が協力して取り組んでいる。」など意見があり、スクールプランの実現に向け、教職員全員で協働し学校運営を行うことができています。
- ・コロナやインフルエンザの感染防止対策による制限が少なくなり多くの教育活動を行うことができています。

#### 改善策

- ・教職員が協働して教育活動を行う組織や職場環境を今後も継承していく。また、取組の重点項目については、その目的に見合った効果的な取組を精査し、現在の児童・教職員さらに保護者・地域の方々に即した取組を行いたい。

### 2 「学校経営・組織について」

#### 達成状況

- ・すべての項目において、肯定的評価が100%で、ポイントもすべて3.6以上と高い数値になっている。
- ・校務分掌については、自らの役割（校務分掌）だけでなくお互いに協力しフォローしながら教育活動に取り組み、良い成果を残すことができた。一方では、職員数の減少などから一人一人の負担が大きくなっている。
- ・「安全点検（整理・保全）」は、ポイントが4ととても高く、一人一人が安全な教育環境について取組み、教育環境が安全に保たれている。
- ・火災や地震想定避難訓練を行い、車いすで避難する児童を含め全校児童がスムーズな避難を行うことができた。保護者への引き渡し訓練は、保護者の理解・協力があり短時間で全ての児童を引き保護者に渡すことができた。
- ・職員会議は、昨年度より短時間でスムーズに進めることができています。職員会議の後には、全職員で児童の情報を共有して指導に生かすことができた。
- ・個別に児童の情報や指導について検討を行うケース会議を開催する回数や時間が増えた。

#### 改善策

- ・校務分掌については、本年度同様に個々で責任を持って取組を進めるよう努め、複数で担当できるような組織し、個人に大きな負担が偏らないよう配慮する。
- ・会議については、会議の目的、次第、参加メンバー、終了時刻を決めるなど計画的に行うようにする。また、資料についてはできるだけデジタル化をすすめ、会議記録を同時にのこせるよう努める。

### 3 「学習指導・生徒指導について」

#### 達成状況

- ・「基礎基本の習得と思考力・判断力・表現力の育成」（肯定的評価91.3%）を含め、すべての高い評価になっている。ポイントも昨年度とほぼ同等な結果になっている。

- ・「基礎基本の習得と思考力・判断力・表現力の育成」は、ポイントが 3.2 ポイント（昨年 3.3 ポイント）と他の項目と比べると低く、読み書き、計算の定着と学力向上の取組は課題がある。
- ・特別支援学級の教育には、多くの先生方の理解と協力のもの進められている。一方で、特別支援学級の担任を含め、安全への配慮や個別の指導など負担が大きくなっている。
- ・児童会活動については、児童会本部や委員会活動の取組が計画的・主体的に行われ、学校の生活習慣の定着向上へとつながっている。

#### 改善策

- ・これからも学力向上に向けて、わかる授業、楽しい授業を目指し、全職員で研修・研究を進め授業改善に取り組んでいく。
- ・読み書き、計算の基礎基本の定着にむけて、チャレンジテストの実施し達成率 90%と数値目標を決めて全校で取り組んできた。今後も数値目標などを継続するとともに、その目標達成に向けての教師の指導の工夫と児童の主体的な学習習慣づくりを行っていく必要がある。
- ・家庭学習の習慣含めた学習習慣づくりのために、児童が主体的に学びを進める時間を授業時間に設定するなど計画的に学習に取り組む力を向上させる。また、タブレット端末の持ち帰りの回数を増やし、児童が自ら学べる機会を増やしていきたい。

### 5 「学校の特色について」

#### 達成状況

- ・すべての項目において、肯定的評価が 100%であった。ポイントは、3.5 以上になっている。
- ・各学年に地域の特色を生かした内容が位置づけられ、地域人材・保護者との連携や地域の豊富な教材（文化や歴史、自然や農業など）の協力や豊かさが本校の学習の特色になっている。
- ・インクルーシブ教育を進めているが個々の児童の実態に合った教育環境や教育内容を整えていくことに困難さを抱えている。

#### 改善策

- ・本校の教育活動の特色である地域と連携した学習を持続的に行えるよう教育課程に明確に位置付けるとともに、地域や保護者の方々との連携・協力を大切にし、より確実なカリキュラム・マネジメントを実施する。
- ・インクルーシブ教育（社会の一員として普通の学校で普通に教育を受けられるようにする）を重視した特別支援教育は本校の特色の一つであり、「ノーマライゼーションの考え方」のもと、障害を持つ児童だけでなく、特別支援教育の研修・実践を深め、実践力を身につけていくとともに、今後も教育委員会の協力を得ながら学びやすい環境整備を進めていきたい。